

# めだかの学校だよ

平成 26 年 11 月 1 日  
第 86 号  
学舎：周智郡森町一宮  
「一宮総合センター」  
事務局：静岡県磐田市  
家田 529-20  
TEL: 0539-62-6691

## 校長訓話

第八十六回 校長 石野 省三

幸せな田舎をつくりたい

浜松市が三年前、中山間地域活性化事業を予算化したことで中山間地域の NPO 化が始まった。浜松市の策略の 1 つかなと警戒しましたが、予算化することに魅力を感じたことで我が鎮玉地域(的場四方浄・田沢・別所・久留女木地区)も名乗りを上げてみることにした。

地域づくり等考えてもいなかった、のんびりした田舎の仲間づくりから始まった。浜松市の北区の愛知県境に位置するこの地区は、人々は保守的でのんびりと暮らし、それぞれの地区で神事や決め事を行ってきた。その地区をまとめて NPO を立ち上げることになった。予算化が無かったなら考えもしなかっただろうに、17名の協力者が集まったのは以外だった。しかし、この地域の環境や実情を見渡す

と立ち上げるための材料が全くといって乏しいことを皆が認識していた。歴史的な遺産、文化的な事象等は殆ど無いに等しかった。ある資産的なものといえば、自然と人だけである。無い知恵を絞りに上げた結果、「川とホタル」「農と食」を軸に、地域の住民と地域外の人たちとの協働を通じ、里における地域ならではの魅力を活かした各種体験事業を展開することで交流人口を増やしていこうということになった。鎮玉地区ならではの魅力を再び見つめ直し、「川」「農」「里」の三領域からの再発見した魅力を核として、田舎特有のゆとりとした時間・空間・そして人々の温かさを体験する各種交流体験事業を体系的に推し進めていこうとするものである。

二年近くなるが「川」では遊べる川を目指し、ビオトープの管理と水生昆虫の保全、「農」では遊休農地の利用活用と林床栽培の構築、「里」では地域資源の再発見と活用紹介とメディアによる情報発信を展開してきている。まとめて「川の道」構想として地域を紹介していきたいと意気込んで

でいる。

現在は、常葉大・恵泉女子大・引佐高校・浜松市の「田舎体験事業」等の若い力とのコラボ中、継続していけることを願う。

理事の一人が農家民宿を立ち上げ、NPO との協働が可能になり活動範囲の拡大に期待したい。

高齢化だの少子化だの人口減少、荒廃地の問題などマイナス要因が山積することは全国的な問題であって、この地域だけの問題ではない。社会構造を変えていかなくは解決できないのでは。

鎮玉地域ならではのよさを活かして、幸せを感じる田舎をつくりたいことで、地域内外の人たちにとっての「美味しい田舎になるのでは」と！ワクワク期待しながら、田舎の兵と共に、遊び感覚で展開を楽しんでいくよ。

メダカの皆さんの実践を糧に！



## めだかの学校伝言板

——第 86 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長/石野省三

教頭/大場みや子

用務員/鈴木青宵

給食係/鈴木祐之・大久保陽・鈴木青宵・牧野久子

石野省三・加藤ひとみ・松島季実子・山中幸子

今村純子・大場みや子・渡辺三ツ子(チーフ)

※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを！

<学舎> 静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」

TEL: 0538-89-7730(開校日のみ)

開校日/平成 26 年 12 月 5 日(金) 6:20PM より

受付/虫生時彦・川崎和子・大場敬子・斉藤昭(後見人)

今回のテーマ: <<めだかの学校のコンセプトは、好奇心と遊び心と挑戦心>>

<時間割> 今回は通常の時間割とは違います。

6:30 給食の時間~引佐町久留女木の棚田米ご飯~

7:20 1時間目 社会科 松島季実代先生

「笑いカワセミのように、笑って笑って健康に…」

7:40 2時間目 家庭科 伊藤英雄先生

「食の敵?緑虫と緑虫と緑虫と…」

8:00 3時間目 理科 古橋利雄先生

「食を助ける?企業家の農への新たな挑戦…」

8:20 ~なんでもありの討論会?~

10:00 閉校

# めだかたち

## ■第16回遠州横須賀街道「ちっちゃな文化展」ありがとうございませう!

10月24(金)と26(日)、第16回目となる「遠州横須賀街道 ちっちゃな文化展」が遠州横須賀城下町の町並みで開催されました。今年も最終日午後雨に降られたものの、おおむねお天気に恵まれたこと、テレビなどで紹介されたことなど、過去最高の人出となりました。今回のメイン会場ともいえる「清水邸」本宅の大空間、鈴木眞弓メダカに担当していただき、テレビの取材もお願ひしました。また同・和室では大橋町代メダカが書の展示、こちらは大勢の人が立ち寄っていました。耳塚信博メダカは病氣療養中ということで今回は展示をキャンセル、早く良くなってください。24(金)夜の交流会では、松本芳廣メダカの手打ち蕎麦が振る舞われ大好評、他大勢のメダカ生たちにお越しいただきました。まさに人間スクランブルの3日間、本当に皆さんありがとうございました。

鈴木武史メダカ

## ■第19回遠州森町発「町並みと蔵展」11月22日(土)と23日(日)

今回のテーマは「怒仲禅師と秋野孝道」です。

いよいよ森町の紅葉の季節になります、今回の町並みと蔵展では天下の名刹に大洞院にスポットを当ててまいります。大洞院を開山し全国3400もの末寺を持つ

寺にまでした怒仲天閑大和尚と中興の祖と云われ、住職の傍ら曹洞宗大学の駒澤大学の初代学長として活躍し火災で落ちぶれた大洞院を見事復活させました。その後、袋井市の可睡斎の住職として可睡斎も見事に復興させ曹洞宗大本山給持寺の貫主となった秋野孝道大和尚にスポットを当ててまいります。

町並みと蔵展では11月17日(月)午前10時より大洞院にて座禅会、22日には街中の西光寺にて午後1時よりばんぶきんの小林編集長に講演していただきます。皆さまのお出掛けをお待ちしております。お問い合わせは090・1472・6189 榊原淑友メダカへ

## ■「アムチ小川の薬草講座」を開催しました!

11月1・2日と長野県別所よりアムチ小川氏をお呼びして、薬草講座を開催しました。

「アムチ」とはチベット医学のお医者さんの尊称です。チベット医学はインドのアーユルヴェーダや漢方などととも東洋伝統医学のひとつです。講師の小川氏はそのチベット医学の最高学府メンツィ・カン(入学・卒業ともに難関)を外国人で唯一人卒業したスゴイ方。

1日目はあいにくの雨にも関わらず、会場の築130年を超えた古民家「花咲の庄」に26名の方に参加いただきました。中にメダカ生徒の姿もチラホラ。キハダの持っている様々な薬効、そして生活のあらゆる場面に普通に取入れられていることを知り、皆興味津々。

2日目は場所を移して「遊久庵」へ。こちらではキハダの染色と軟膏作り。恒例の

薬草茶作りはさらに発展して自家製葛根湯作り。キハダ・マスター目指し、未来へ向けて希望をつないだ有意義な講座となりました。

大島たまよメダカ

## ■大感動! 大迫力! ミュージカル「ブツダ」12月13日磐田で上演!

前回「トピックス」でもご案内した、わらび座のミュージカル「ブツダ」。事の起りは、子供たちに本物の芸術に触れる機会をもっと増やし、これからの未来につなげたいと考えてわらび座の舞台を磐田に呼ぶことに。9月半ばに文化協会会長である鈴木正善氏を委員長に実行委員会が立ち上がり、開催に向けてメダカ生達を中心に元気に動き回っています!

先日わらび座さんの「厚意により9月30日浜松アクトで行われた「ブツダ」の舞台を実行員会メンバーが先行して観劇してまいりました。

・歌の歌詞もわかりやすく心に響いて感動した。

・想像以上に迫力があって圧倒された。

・本物は人の心を動かすと強く思った。

と、ミュージカルが初めてというメダカも多かった中、皆口々に「よかった!」「是非皆にすすめたい」と感想を述べています。

また磐田子供ミュージカル主催の佐藤典子さんからも「わらび座は本物の劇団。素晴らしい舞台ですので自信をもってお勧めします!」と力強いお言葉を頂いております。

わらび座は秋田県田沢湖を拠点に活動する日本でも屈指の劇団です。そのわらび座のミュージカルに、原作は日本を代表する漫画家の手塚治虫・演出は今の日本演劇

界の大御所栗山民也が手掛けているので、面白くないわけがありません!! 本格的ミュージカルの大迫力を身近に体験できるチャンスです。

こんな時代だからこそ「ブツダ」!

現在、私たちの周りにはモノがあふれるほど在るのに、心の悩みから来ると思われる虐待や自殺、考えられないような事件が多くみられます。私たちはこの地球の中でどんな存在なのか? 何のために生まれてきたのか? 私たちが生きる上での永遠のテーマであるかもしれません。

何千年もの昔、インドの小国の王子として生まれたブツダも同じように「人とは何か?」「人間の苦しみはどこから来るのか?」「人間に貴賤があるのか?」と悩み、自身の身を持ってその答えを探し求めました。

このミュージカルは、仏教の教祖としての「覚者(ブツダ)」ではなく、人として悩み苦しむ若きブツダの半生を力強く生き生きと描き出しています。こんな時代だからこそ、民衆とともに人と人が助け合い・支えあう素晴らしさを描いた「ブツダ」を!

12月13日の開催まであまり日はありませんが、皆で力を合わせて、より多くの方々に観ていただけるよう活動していきましょう!



## ■三遠南信サミット住民セッショ ン「三遠南信祭り街道を提言」

10月27日に浜松のアクトシティで午前中に行われた住民セッションは3テーマで行われた。(祭り街道はその中のひとつ)今まで151号線の阿南町を中心に祭り街道と称して地域の祭りの振興を進めていた。このままだと南信と東三河で祭り街道を推進されてしまう。遠州側にも重要な祭りがあると水島加寿代メダカが危機感を感じ、遠州にも広げていきたい、と声がかかった。今私は「姫街道未来塾」を推進しながら「浜松市無形民俗文化財保護連絡会」の事務局の一端で地域に残された民俗芸能の文化を次世代に繋げていく広報活動をしている。スタートは遠江のひよんどりとおくないの連絡協議会が発足し、その活動を評価した浜松市文化財課が浜松市全体の浜松市無形民俗文化財保護連絡会(国・県・市指定の民俗文化財が19団体集まった組織)を立ち上げる結果となった。遠州側にもこんな沢山の指定文化財があるという資料を持って三遠南信の会合の度に持参した。その結果、西浦田楽や寺野・川名のひよんどり懐山のおくないなど国指定でもあり、尚且つそれらの文化財の団体が1つにまとまったということ、遠州側が一目おかれる結果となった。

そこで今回のサミットで祭り街道の提言である。三遠南信全体で祭り街道を取りあげるなら、151線だけではなく広域事業連携として三遠南信の「祭り街道」を一体として連携していこうという認識になった。

段舞楽などが国指定無形民俗文化財である。これからは県境を越えて交流が進むことを期待している。

上嶋裕志メダカ

## ■スイスでちんどん披露「浜松・花蝶ちん」

スイスの首都ベルンで開かれた文化交流イベント「ジャパンウィーク」(10月19日〜26日)に参加しました。国際親善協会(東京都)が世界に日本文化を紹介し、国際親善につなげようと国を変えて毎年開いている。スイスは三十九回目、和太鼓や舞踊、茶道など五十二団体、八百六十一人が参加した。

メンバー九人のほか、愛好者の応援団ら十五人で参加。六百人が見守るオープンイングリッシュでは、ちんどんを英語で紹介した後、「東京音頭」や「上を向いて歩こう」などをにぎやかに披露した。ベルンの繁華街も一時間ほど練り歩き、地元紙の記事にも取り上げられました。

来年秋のフィンランド公演にも参加する予定。皆さんもいつしよにいかがですか?フィンランドの街をいつしよに練り歩きましょう!

藤田潤吉メダカ

## ■祭りとの融合「祭り街道弁当」 フェアが長野阿南町で開催

新しい命をいただく祭りと食のおもてなしをテーマに、長野阿南町の「ゆうゆう」らんど阿南 かじかの湯」で開催された。

平成二十六年十一月八日(土)、秋深まる信州路の紅葉が参加者を歓迎してくれた。祭り街道は国道一五二号線の市町村との連携で、現在は阿南町から東栄町までエリアを広げている。国道を動脈と見え、いずれば支脈の市町村も巻き込んで活動する予定とのこと。当該地域には多様な祭り文化があり、春・夏・秋・冬と四季を通じて必ずどこかの地域で祭りが行われている。また、祭りに関する食文化や豊富な食材が多く分布している。祭りは生活(食文化)と一体化していることがテーマになっている。

メダカ生も参加。前日から参加して、地元のおもてなしを受けた菅原敏一メダカ、上嶋裕志メダカは大いに満足気味!当日は、水島加寿代メダカ、金子芳美メダカ御夫婦、伊藤英雄メダカ、石野省三メダカが食のおもてなしに誘われて参加。

関京子メダカ御夫妻が満面の笑みで迎えてくれた。関京子メダカの挨拶でオープンニング!「坂部の冬祭り」の鑑賞、飯田市美術館の櫻井弘人氏の解説と関メダカのご主人が中心となつての、注連引きと御供渡し、本舞・湯立て、面形舞・たいきり面などを披露してくれた。のめり込みの一時だった。保存会の皆さんありがとうございました。

続いて、料理研究家横山タカ子先生のご指導による「神楽舞弁当」をいただく。器は坂部の皆さんの手作りの竹器、枝を利用した箸置きと竹箸おもてなしの心が伝わった。内容は、湯飾り大根・こった煮・ゆず釜・アルプスサーモンのたらぼこ焼き・結びご飯をいただく。地元産の材料で工夫された薄味と気持ちのこもったおもてなしに参加者の心も和み、伝統料理の話題に花が咲く。参加者の皆さんは新しい命をいただき、満足と喜びで祭り街道の一日を楽し

んだ。関さん御夫婦をはじめ、坂部、信州の皆さんに感謝です。信州、東三河、遠州を含めた祭り街道実現に期待します。(石野省三メダカ)

※都合により「人・ひと・ヒト」だより「めだか春秋」はお休みです。その関係でトビックスの場所がいつもと違いますがご容赦ください。



## ■脳の影・どっちがホント?

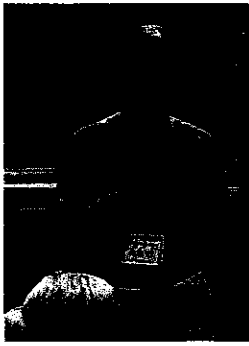
いまから十数年前、検診で人間ドックへ行きました。脳も診てもらったことにしました。結果、先生いわく「榊原さんすい」。なんにも影がありません。意気揚々と家に帰って妻に話すと、「それでわかりました。お父さんには、生活習慣の積み重ねが何もなくて子供と同じ。」それから数年後の先日、妻に「左手がいつもと違うみたい。ちよつとしびれもあるし」と言つと急ぎ聖隷三方原病院に。11月3日、CT・MRIをとると妻が呼ばれて、影があります。「エッ」私にも生活習慣の積み重ねができたんだと思いきや、「頸動脈狭窄で入院しましょう。」だつて。

アインシュタインのようなIQの高い知識人脳はひだがいっぱいとか。そのひだと影を間違えて。これでは知識のひだも生活習慣の積み重ねも無理か、年をとると子供に戻る、とか。よく思つことにしよう。いつまでも少年のままに……。

……そんな事情になりました。皆様には大変なご迷惑とご心配をおかけしました。お許しくださいませ。 パラメダカ

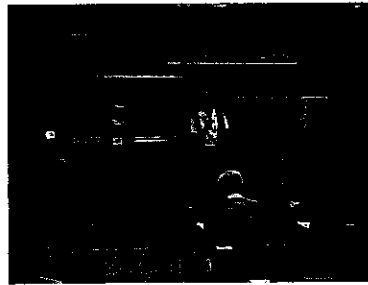
### ■事務局だより

平成26年9月5日、校長 富田久美子、教頭 日比野雅彦、用務員 加藤ひとみ。今回の事務局だよりは第85回の授業風景を写真でお送りします。



市原実さん特別授業！

校長先生訓話！

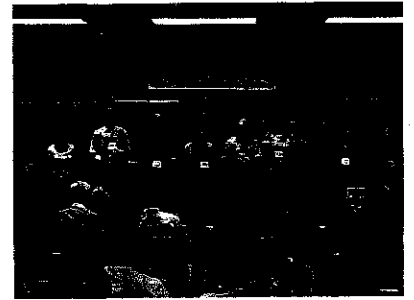
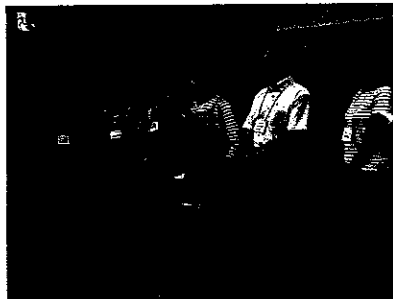


まずは、恒例の新生自己紹介！

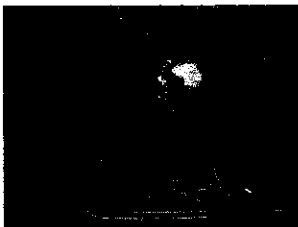


次回の給食当番のみなさん

三役の交代セレモニー！

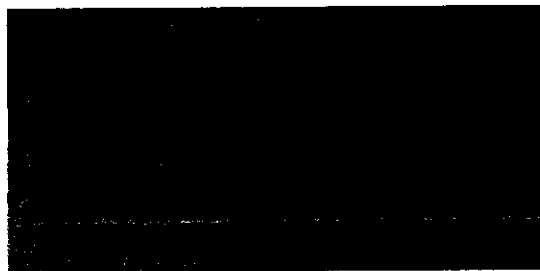


給食当番の皆さん、ありがとう！



秋の味覚、マツタケづくし給食

メダカ生の想いがいっぱい詰まった、宿題！



お別れは輪になって…

### ■事務局より

お世話人の榊原幸雄メダカ、白内障手術のみかと思っていたが、血管の故障が見つかり再入院、本人は元気いっぱいだが無理はダメ。もうすぐ出所出来るけど、やはり無理はダメ。メダカ生全員、早い回復を祈ると共に、共助の心でぞみましよう。

### ■第22期の受け付け始めました

第22期めだかの学校は、平成26年9月1日から平成27年8月31日までです。同封の申込書に必要事項をご記入のうえ、未継続生は入学金1000円を添えて、郵送又は事務局までご持参下さい。申込み手続きのなされない生徒は名簿からはずれ、自主退学となりますのでご注意ください。新しく希望される方がいましたら事務局までご連絡ください。資料と申込書をお送りします。

### ■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行は、2月1日予定。締切りは、1月20日です。ぜひご連絡を！郵便かFAXで。メールの方は、[Mabuchi-trd@vr.tnc.ne.jp](mailto:Mabuchi-trd@vr.tnc.ne.jp) 間瀬亮太0990・50099・09986です。(メールの方は割付の関係もあるので「報を」)

### ■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田5  
29番地20 榊原幸雄方 TEL 05  
39・62・6691 (FAX同じ)  
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一  
宮3150。電話 0538・89・77  
30 開校日の午後4時以降のみ使用可。  
携帯 080・1612・9130

